

平成27年12月25日（金）

第12回定例教育委員会会議録

我孫子市教育委員会

1. 招集日時 平成27年12月25日(金)午後2時
2. 招集場所 教育委員会 大会議室
3. 出席委員 教育長 倉部 俊治 委員 北嶋扶美子  
委員 豊島 秀範 委員 長谷川浩子  
委員 足立 俊弘
4. 欠席委員 な し
5. 出席事務局職員
- |                            |      |                  |
|----------------------------|------|------------------|
| 教育総務部長                     |      | 湯下廣一             |
| 生涯学習部長                     |      | 小林信治             |
| 教育総務部次長兼総務課長               |      | 小島茂明             |
| 生涯学習部次長兼生涯学習センター長兼生涯学習課長   |      | 増田建男             |
| 教育総務部参事兼学校教育課長             |      | 丸 智彦             |
| 文化・スポーツ課長兼白樺文学館長兼杉村楚人冠記念館長 |      | 西沢隆治             |
| 指導課長                       | 榊原憲樹 | 鳥の博物館長 斉藤安行      |
| 図書館長                       | 日暮延浩 | 教育研究所長 水戸勝英      |
| 生涯学習課主幹兼公民館長               |      | 少年センター長 大島慎一     |
|                            | 今井政良 | 文化・スポーツ課主幹 小林由紀夫 |
| 教育総務課長補佐                   | 森田康宏 |                  |
6. 欠席事務局職員 な し

午後 2 時 0 0 分開会

○倉部教育長 ただいまから平成 2 7 年第 1 2 回定例教育委員会を開会いたします。

これより会議を始めますが、教育委員並びに事務局職員に申し上げます。我孫子市教育委員会会議規則第 1 8 条の規定により、会議で発言する場合は挙手をし、私が指名してから発言をお願いします。また、会議を円滑に進めるため、発言は一問一答をお願いします。

---

会議録署名委員指名

○倉部教育長 日程第 1、我孫子市教育委員会会議規則第 3 1 条の規定により会議録署名委員を指名します。北嶋委員をお願いします。

---

諸 報 告

○倉部教育長 日程第 2、諸報告を議題とします。

事前に配付された事務報告、事務進行予定資料等に補足する説明や追加する事項があればお願いします。

初めに教育振興基本計画（案）について、森田課長補佐。

○森田総務課長補佐 教育振興基本計画ですが、事前に委員の皆さんには資料ということでお配りさせていただいております。先月も途中経過という形で御説明させていただいておりますけれども、ここへ来ましておおむね完成というところまでできましたので、改めてここで御報告させていただきます。

基本的な部分につきましては、先月配付したものと変わってはおりませんが、先月から変わった点を中心に御説明をいたします。

7 3 ページの「資料編」のところですが、こちらに「生涯学習施設一覧」ということで、市内の公民館ですとか、図書館、鳥の博物館、裏に行きまして史

跡・文化財、スポーツ施設ですね。いわゆる生涯学習施設と言われるものの一覧表を、こちらのほうに資料2という形でつけさせていただきました。こちらについては、先月説明した段階では、7ページの「1 我孫子市の教育を取り巻く状況」に、このページを載せるということでスペースを確保してありましたが、内部でいろいろ検討を加えた結果、後ろの資料一覧のほうが内容的にもふさわしいというところで、こちらの資料一覧のほうにこういった形で載せさせていただきました。

次に、少し内容のほうで追加というか、補強をした部分ですが、58ページの「(4) 歴史的・文化的遺産の整備・活用」の、2つ目の施策「手賀沼文化拠点整備計画に基づく整備・活用の推進」という文化・スポーツ課の施策ですが、こちらにつきましては、白樺文学館ですとか、杉村楚人冠記念館、旧村川別荘、このあたりの施設の今後のあり方ですとか、あるいは情報発信等の部分について記述を加えるということで内容のほうを大幅に補強いたしました。

あとは同じく情報発信という部分では、61ページの「(6) 歴史的・文化的遺産に関する情報発信の拡充」の、1つ目の施策「歴史的・文化的遺産を公開する場や機会の確保」というところで、この施策の中にも情報発信の部分も少し記述を入れさせていただきました、内容を補強しております。

以上、2点が主だったところで、このほかにも細かな文言の修正等も行ってありますが、それについてはここでの説明は省かせていただきます。

今後の予定ですが、これは先月の説明の繰り返しということになってしまう部分もあるのですが、12月25日から1月22日までパブリックコメントということでホームページあるいは行政サービスセンター等に資料としてお出ししまして、市民の皆様から御意見をいただくという機会を設けております。その後、1月の定例教育委員会及び総合教育会議でパブコメ等の意見を含めた形で御報告させていただきます、その後、前回は予定ということで説明

をしたのですが、2月4日に教育福祉常任委員会の委員の方々に対する勉強会を開催するというので、今のところ議会のほうと調整中です。

○湯下教育総務部長 済みません、日程が変わってしまして、2月8日（月）10時から12時ということで変更になっています。申しわけありませんでした。

○倉部教育長 議会についての説明ですね。

○森田総務課長補佐 申しわけありません。日程が変わったということで今、部長がおっしゃったとおりの日程になっております。

その後、庁議を経まして2月の定例教育委員会で正式な議決をいただきまして最終的に3月議会の報告という形のスケジュールになっております。以上です。

○倉部教育長 ありがとうございました。以上で説明が終わりました。

まず教育振興基本計画について御意見があれば先にお伺いしたいと思います。

○豊島委員 12ページのところと、22ページのところの対応なのですが、12ページの「基本目標Ⅰ」、「(2) 確かな学力の育成」の一番下の○のところは「英語教育における」と書いてあるのですが、22ページのほうは、「英語教育」がなくて、「外国語教育・活動における」というふうになっているのかなと思います。その表現が違っているのではないかと思います。

○森田総務課長補佐 委員が御指摘の点ですが、こちらについては内容をいろいろと直前に入れかえた経緯がございまして、22ページの表現の部分、こちらが正しい表現ということで、12ページのところは訂正という形にさせていただきます。

あと、これに関連しまして、後ろの施策一覧にも同じ施策ということで載っております。65ページの上ですが、そちらのほうも「英語教育におけ

る指導力の向上及びALTの活用」というふうになっておりますので、こちらのほうも22ページの表現と同じ表現に訂正をいたします。申しわけございませんでした。

○倉部教育長 そのような表現の仕方をしていただけるということで、よろしくをお願いします。よろしいでしょうか。

○豊島委員 26ページと27ページのところなのですが、これは12ページのところと全部対応しますけれども省きます。

26ページの1行目の「(5) 信頼される学校づくりの推進」、これはここで切れるのですよね。「、」だと思うのですよね。「教職員の意識高揚を図る職場環境づくり」、例えばその右側、27ページの1行目「情報の積極的な発信と保護者、地域への丁寧な説明」、「保護者」で「、」を打ってしまうと、ここで切れるのですよね。これは「保護者」と「地域」というのが並んでいるのだと思うのです。ですから「保護者」と「地域」のところは「・」、左側の「推進・教職員の」というのは並んでいないと思うのですよ。ですから、ここは「、」を打たないと文には通じないということになると思うのですよね。同じことが35ページ、これは全部12ページとか、そちらと対応しますけれども省きます。35ページの一番下の「○学校、市ほか教育機関との」という「学校」で「、」を打ってしまいますと、「学校」だけが浮いてしまうと思うのですよね。「学校」と「市」というのは、この場合は並んでいると思うのです。ですから、そういう意味だと「学校・市」と書かなければいけない。

同じことが36ページの一番下の「○警察、生活安全関係機関との」というのも、「警察」と「生活安全関係機関」というのは、この場合はもちろん別々ですが、それでも、「、」で切ってしまうものではないと思うのですよ。ですからここも「・」だと思います。その「・」と「、」の小さいことですが、そのほかのところは、例えば35ページの1行目のところの「(2) いじめ・

非行防止対策の推進」、これは「・」でいいわけですね。そのようにほかのところは大体なっているので、そのところ小さいですけども、倣っておいたほうがいいのではないかというふうに思ったのですけれども。お任せします。以上です。

○森田総務課長補佐 お答えいたします。「・」と「、」の使い方という御指摘ですが、私も深く考えずに使っていた部分が実はありまして、教育振興基本計画は市の総合計画に準じている部分もあるということで、市の総合計画でこういった表現になっているものを、そのまま持ってきている部分も多少ありますので、その辺も見ながら対応させていただきたいと思います。以上です。

○倉部教育長 よろしいでしょうか。ほかにいかがでしょうか。

○北嶋委員 質問なのですが、内容についての質問でも構わないですか。

40ページの生涯学習の鳥の博物館の【現状と課題】、またほかの部分にもあるのですが、この「ワゴントーク」というのはどのような内容なのか、お聞きしていいですか。

○斉藤鳥の博物館長 お答えします。「ワゴントーク」というのは、展示室の中に可動できるワゴンを持ち運んでいって、そこでいろいろな資料を置いて、展示の前で学芸員、あるいは市民スタッフが展示の解説をする、そういうイベントというか、解説のことを「ワゴントーク」と呼んでやっております。

○北嶋委員 それは鳥の博物館が何かの企画のときに、そういうメニューを用意して、今回はこういう企画をワゴントークでやりますよという御案内が行われるものなのですか。

○斉藤鳥の博物館長 特に事前に何をやるというプログラムを提示しているわけではなくて、市民スタッフとの話し合いの中で、今のこの時期はこういうテーマがいいのではないかということで幾つかお話を用意して、それを市民スタッフが来られる日に展開するという形でやっております。

○倉部教育長 よろしいですか。ほかにいかがでしょうか。

教育振興基本計画についてはよろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 それでは、教育振興基本計画についての質疑を打ち切ります。

次に、第3次生涯学習推進計画について説明を求めます。

○増田生涯学習課長 この推進計画については、10月の会議で報告をしておりますが、それ以降、あびこ楽校協議会、社会教育委員会議、そのほか本部会議、それから関係各課等から意見を聞いております。その意見を取りまとめて12月4日に策定部会で協議をし、そこでまた意見をいただいて、さらにそれを調整して、今回、最終計画(案)としてお出ししております。基本的なところは全く変わっておりません。形式等も変わっておりません。

まず変わったところですが、3ページの「趣旨」のところ、これは加筆、それから修文等行って文章の整理をしております。内容について、言わんとしているところは変わっておりません。

それから、9ページの「位置づけ」なのですが、一番下のなお書きの部分を加えております。これは「この計画が社会教育推進計画も包含する計画」ということで、それを明確にここでうたっております。図についても、この部門別計画のところ、前は生涯学習推進計画との整合調整という双方の矢印があったのですが、生涯学習推進計画自体が部門別計画ということで、ここで調整はなくてもいいのではないかということで削っております。

「基本方針」についても、2行目に「みずから学ぶ」というところを入れております。

15ページの「基本目標」、目標自体は全く変わっていないのですが、表記の仕方がかなり変わっております。以前はここに基本目標を置いて、その説明があつて、その後、(1)、(2)、(3)というような形で、その

方向性みたいなものを説明していたのですけれども、この方向性というものを3章の施策の方向性に持っていったらどうかという意見がありまして、全部施策の方向性というところで、加筆して文章にしております。基本目標の15ページからについては、施策そのものをここにしております。体系図は変わっておりません。

続いて3章ですが、まず「現状」があって、その後に市民意識調査のアンケート結果を載せているのですけれども、策定委員の中から、このアンケートの表が少し異質に感じるという意見が出てきました。その検討の中で、この課題がどこから出てきたのかというと、このアンケートの中から拾っているものもあるでしょうということで、この表を入れてなおかつ課題の中に、そのアンケート結果が盛り込めるものについては、それを入れて課題としたほうがより流れとしていいということになりまして、表はそのまま入れると。それで課題にアンケートの結果が入れられるものについては入れていくという形をとっております。そこが大きく変わった点です。

3章の「重要施策」というところも削っております。重要施策として位置づける必要はないということで削っております。

それから4章の「推進体制」ですが、以前は「関連団体との連携」というのを入れていたのですけれども、それを削除して審議会の運営、庁内体制の充実というように2つの項目に減らしております。

それから裏の図ですけれども、四角の枠が何を意味しているかわからないということなので、この枠が何であるかというものをしております。

それから「進行管理」は、加筆して説明をふやしております。

それと資料なのですけれども、「計画策定の経過」については生涯学習推進策定部会、社会教育委員会議、あびこ楽校協議会、推進本部、推進本部幹事会の経過をしております。

それと要綱、用語の説明をふやしております。

○倉部教育長 別の資料がありますので、それも関連してお願いします。

○増田生涯学習課長 関連して、生涯学習審議会条例ということで、新たに条例を策定します。これは前回も説明しておりますが、あびこ楽校協議会と社会教育委員会議をあわせた形の審議会という形で、今後推進体制の中に組み入れていくという形です。

まず組織なのですけれども、第3条、委員は15名以内で組織する。これは今の社会教育委員と同じ人数です。委員構成なのですけれども、これも現在の社会教育委員の構成と同じような形になっております。ただ、社会教育委員関係者ということではなくて、生涯学習の関係者という名前に変えております。任期も3年と、社会教育委員と同じ年数になっております。説明は以上です。

○倉部教育長 いわゆる計画そのものを一本化したのだから、それを審議する委員も一本化したということで理解してよろしいわけですね。ありがとうございました。

以上で説明が終わりました。生涯学習推進計画について質疑があれば許します。いかがでしょうか。

○北嶋委員 すっきりしましたね。まずアンケートのことですが、今、平成28年3月につくったということで、このときの市民の意見、皆さんの意見に合わせてつくったということで、私はグラフがあっただけかなと思いましたが、それからいろいろ重点施策とか整理されて、これからの我孫子の生涯学習の推進に合わせた施策が行われていると思いますので、こういう形で今はいいのかなと。大分時間がたって生涯学習の考え方も違ってきていますし、市のいろいろな運営も変わってきているので、その市の運営に合わせた生涯学習があっ、市民がその中で生き生きと生きて、また活躍して、市のために、公的なもののために、個人のために、それぞれがライフステージに合わせた人生を送ってく

ださるのが多分一番いいということで、今回これができ上がったのだと思います、私もいろいろ申し上げましたけれども、ありがとうございました。皆さんが市民の御意見いただいて、よりいいのができるといいなと思っています。

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。——よろしいですか。

○増田生涯学習課長 申しおくれてしまいました。この審議会条例なのですが、教育振興基本計画、第3次生涯学習推進計画はきょうからパブコメを行っておりますけれども、同じように審議会条例もパブコメを行っております。予定としては1月の教育委員会に議案として出す予定でおります。以上です。

○倉部教育長 ありがとうございます。質疑はよろしいですね。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 それでは、以上で第3次生涯学習推進計画についての質疑を打ち切ります。

次に文化財について、西沢文化・スポーツ課長、お願いします

○西沢文化・スポーツ課長 私のほうからは、平成26年5月22日から8月5日まで行っておりました根戸船戸遺跡の1号墳発掘調査で出土しました「頭椎大刀(かぶつちのたち)」。これらにつきましては、こちらに上げてきた段階で皆さんに見ていただいております。金属器はさびを落として塩分を抜いた形の保存処理が終わりまして、このたび戻ってまいりましたので御報告したいと思います。ちなみに、この発掘調査で第四小学校の6年生、白山中学校の1年生には現場の見学をしていただいております。本来であれば一緒に掘ったりという経験も普通の発掘調査だとできるのですが、今回は古墳ということでいろいろ制限がありまして、あとは危ない面もありましたので、今回は一応見学ということで両校の子供たちに見学をしていただいております。

本日お手元にお配りしている資料、A4が4枚ございますが、これにつつま

しては平成26年11月18日から平成27年3月22日まで、旧村川別荘で根戸船戸1号墳の速報展という形でやったものの資料になります。金属器関係はこのときは既に保存処理に出しておりまして、そういうものにつきましてはパネルで展示し、一緒に石室の中から勾玉、玉類が出てきていますので、それはまだこちらにございましたので、そういうものは実物を見ていただくような形で展示をさせていただきました。そのときの資料になります。

お手元の資料の1枚目になりますが、日立精機2号墳、第四小学校古墳、白山古墳群、それと根戸船戸遺跡ということで記載されている地図が左側にあります。右側は根戸船戸遺跡ということで1号墳から6号墳まで、1号墳は赤で印をしております。これにつきましては昭和53年のころ、グリーンタウンと白山中学校を増設するというときに発掘調査をしまして、1号墳はそのとき対象外、農家の庭先だったものですから対象から外れていたのので発掘調査をしておりません。2号墳から6号墳までは調査をしまして、2号墳は今、根戸古墳公園ということで現状保存しております。3号墳から6号墳につきましては、今はグリーンタウンということでなくなっております。そういうことで位置関係等を1枚目に印をしております。

2枚目になりますが、白山中学校の子供たちが現場見学している写真等を使わせていただきました。担当の辻課長補佐が説明しております。この1号墳は、終末期の6世紀から7世紀の古墳ですので、きちんとした前方後円墳の形をしていません。石室は南側、沼側に向いて開いている状況の資料になります。

次の3枚目になりますが、その石室の石組みの図面と写真類になります。この石室の中から今回の頭椎大刀を含めて大刀4振り、鉄鏃関係がまとまって出ておりますし、勾玉類、一般的に言う古墳の石室から出る副葬品がまとまって出土しております。

最後の4枚目、頭椎大刀が壁の石室の角のほうの壁に寄り添うような形で出

土しています。この絵と同じような形の写真の状況になります。「頭椎」でいう左の柄の丸い玉のようなものは、実際にはこの写真にはありません。右の奥のほうに別に転がっておりました。この状況ですと、一度頭椎大刀の持った方が埋葬されて中に入れられる。家族墓なものですから、その後何回か追葬をしている状況だと思います。後から入れたときに前の頭椎大刀等を横にずらして、大刀を持った人間が入っている形。何回か追葬している段階で頭椎大刀がさびて頭が落ちたのが、何らかの拍子で奥のほうに行ってしまった状況が考えられます。この頭椎大刀を持って入った方は、この古墳をつくった最初の方の可能性がすごく高いと思います。その後、大刀3振りが出ていましたけれども、これを持って入った方は後から追葬で入った方という推定がなされます。

頭椎大刀につきましては、左のほうに千葉県地図等も出しておまして、まだほかにも出ているのですが、大きなところではこういう古墳から出ています。この古墳は各地方の大豪族の墓で古墳自体はすごく大きな古墳になりますが、今回の根戸船戸の1号古墳につきましては2ページで示したように、長いほうで35メートル、短いほうで25メートルぐらいの本当に小さい古墳、こういう古墳からこのような飾り大刀が出てくるといって自体考えられない。我孫子が交通の要衝であり、また大和朝廷との何らかの強いつながりがあったことが、こういう部分で証明できるかと思います。1つ古い段階では水神山古墳等も我孫子にはあります。水神山につきましては東葛で一番大きな古墳であり、大和の古墳の形に酷似しているような形で、大和等とのつながりがすごく感じられる古墳ですが、今回こういう根戸船戸1号墳のような我孫子にある一般的な古墳群の中でも、こういう大和とのつながりが強く出る頭椎大刀が出てくるといことは、大和とのつながりがすごく強い者がここをおさめていたということの1つの証明になろうかと思います。展示という形でしか見ていただけないのですが、私どもで今整理をしている中の形のもので、一応金ピカの部

分も見えていますので、後でごらんいただければと思います。私のほうからは以上です。

○倉部教育長 今、御説明のありました頭椎大刀を含めての遺跡について何か御質問があれば。よろしいですか。後ほど、また加えての説明があると思いますが、とても価値の高いものだということで、今後の研究によっては、遺跡として、あるいは遺物としての価値が非常に増すのではないかと期待しておりますので、これからもしっかりとやっていただきたいなと思います。

○西沢文化・スポーツ課長 何点か補足したいと思います。今回この頭椎大刀が出ておりまして、文化庁が発掘調査で出たいいものを、全国を回って展示をしている企画がありますが、千葉県から、この展示会に出すということで手を挙げたらどうかということが内々に話があります。私どもとしてもぜひ手を挙げてやっていきたいと思っています。以上です。

○倉部教育長 ありがとうございます。よろしくお願いします。

それでは、これより事務報告に対する質疑の時間としたいと思います。質疑があればこれを許します。

○北嶋委員 指導課にお伺いします。6ページの4番に「ALTミーティング」という項目がありますけれども、私は11月に学校教育課の学校訪問に御一緒させていただいて、何校かでALTの方の授業を見させていただきました。Assistant Language Teacher なので、アシスタントとしてのお仕事だと思いますけれども、私が見た範囲では、せっかくネイティブの方がいらっしゃるの、もう少しネイティブの方の指導というか発言があってもよかったのかなと、数少ない授業ですから何とも言えないのですが、そのようなことも感じました。ALTの授業での役割というのはどのような範囲になって、あくまでも一緒に組まれる先生と役割分担をされているので、特にこういうところはALTが優先というのはないのですか。

○榊原指導課長 今おっしゃられたように、あくまでもアシスタント、T2としての役割ですので、授業の計画と実施の主体性はT1である教諭が持っているということになります。ただ我孫子市は非常にすぐれたALTの方を配置していただいておりますので、私どもとしてもより活用の場面を広げていただくということで、それは中学校の英語科の先生方にも指導しているところでございます。

○北嶋委員 お二人方が並んでいらして、日本の先生が教科書を読んだり、発言をなさっていて、隣でALTの方がいらっしゃるので、できたらネイティブの発音も、重なってもいいから聞きたいなど。見ていたら何となくサポーター的な感じでペーパーを配ったり、ちょっとしたゲームのところにいらっしゃいましたけれども、外国語発音が大きな役割ではないかなと思いますので、そういう場面でのもっと積極的なことが許されたらいいのかなと。2人で10の関係になりますので、先生がそれを声かけないとなかなかALTの方は、性格にもよるでしょうけれども、御自分の発話ができないもったいないので、その辺ももっとALTの方に活躍していただくようなシーンができてもいいのかなと、幾つかの授業を見て感じましたので発言させていただきました。

○倉部教育長 要望ということでよろしいですか。ぜひ委員の要望を十分にしんしゃくしていただければと思います。よろしく願いいたします。

ほかにいかがでしょうか。

○豊島委員 今の6ページの「幼保小連携推進研修会」、「幼保小連携推進委員会」というのも7ページのところにありますけれども、ここで両方とも、幼保小連携の接続カリキュラムについて話し合われているわけです。中学校の授業に小学校の先生が参加していて、後で「きずな」のところで触れたいと思いますけれども、小中一貫教育の中で幼保と小学校との連携というのも当然重要になってくるのですけれども、たくさんの先生方が参加されていて、6ページ

の研修会のところですが、**「カリキュラムについての協議」**というところで、そう簡単にはなかなかいかないのですけれども、小学校の先生方が幼稚園、保育所とのカリキュラムとの接続のことで、さらに検討を要するとか、あるいは今までの考え方でいいのだというふうなことで、研修会のところでの、我々が知っていておいたほうがいいということがありましたら教えていただきたいと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○榑原指導課長 お答えします。現在そこにあります幼保小は、ことしの主眼は接続カリキュラムの作成という具体的な作業に入っております。このカリキュラムは4つの力、生活する力、コミュニケーション力、チャレンジ力、豊かな心という4つの観点からなっているものなのですけれども、その具体的なカリキュラムの原案をこちらで用意したものを、実際に指導に当たっている幼保小の先生方に文言を1個1個確認いただいて、どういった内容がテキストとして最適なのかということ具体的に作業していただいた研修会ということでございます。

○豊島委員 ありがとうございます。私なんかは、小学校、中学校の連携というのはイメージに浮かぶところがあるのですけれども、幼保小の連携というのは今、生活、コミュニケーション、チャレンジ、豊かな心ということで、ああなるほどというふうに少しイメージが広がりましたがけれども、なかなか十分に理解できていないところがあるものですから、子供たちの年も低いし、それがどんなカリキュラムで接続をさせていくのかなということが、うまくつかめていなかったものですからお聞きしました。今の4つの部門ということで、こういうことをつなげていくということで具体的なことは少しわかりましたけれども、これはさらに今後どういうふうな形で進めていくのでしょうか。

○榑原指導課長 このカリキュラムは、年長さんの10月から小学1年生の6月まで期間のカリキュラムとなっております。今年度、市の標準カリキュラム

というものをつくりまして、来年度、再来年度の2カ年かけまして、今度は各小学校、各保育園、各幼稚園のそれぞれ独自のカリキュラムに改善していただくような計画でございます。

○豊島委員 了解しました。そこのところがまとまったら教えていただきたいと思います。勉強させてもらいます。ありがとうございます。

○倉部教育長 よろしいですか。ほかにいかがでしょうか。

○長谷川委員 同じ7ページの9番なのですけれども、「第3回教育支援委員会」、教育支援員さんが19人になっているのですけれども、たしか14人はずなので、これは専門委員さんを含めた人数というふうに受け取ればいいですか。

○榊原指導課長 御指摘のとおりです。大変失礼しました。専門委員職の方を含めた人数ということになっております。

○倉部教育長 よろしいですか。ほかにいかがでしょうか。

○北嶋委員 今の続きですけれども、特別支援学級についてですが、来年度は今年度よりふえる可能性はありますか。

○丸学校教育課長 12月の学級編制基準の中では、情緒・知的ともにふえる予定であります。普通学級は減になります。児童生徒数も大体180人ぐらいの減になるかなと。その中でもそちらの特別支援学級のほうはふえてしまうかなということです。

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。

○豊島委員 指導課の8ページのところなのですけれども、少年指導員の方々が計103名参加された1番の街頭指導のところですが、11月から12月10日までかけて、7回に参加されている。今いろいろな問題が起こっているものですから、こういう地道な活動というのは非常に大事だと思うのですね。高校生の男女の帰宅指導の4人を含めて小学生男子とか、ここにはそれしか書い

てありませんけれども、時間的には限られていると思いますけれども、こういう街頭指導というのはますます重要になってくるのかなと今思っているのですね。ここでの指導を通して、11月、12月やってみてのことですけれども、今の時代を反映するような、特に今後考えていかなければいけないような問題というのは何か起こっているものなののでしょうか。そこのところお聞きしたいのですけれども。

○大島少年センター長 このパトロールですが、最近のパトロール員さんからの話では、やはりなかなか子供たちの姿が見られないというようところが上がっております。実際に私も外に出るのですが、昔に比べて、例えば公園でたむろをしていたりとか、ゲームセンターにいる子というのはほとんど見かけない。子供たちは、今はスマホの時代ですので、外でというより中でというところで、すごくその姿が見えづらくなっているという感じは受けます。以上です。

○豊島委員 これも「繫」でいろいろな情報を教えていただいて本当に感謝しています。ありがとうございます。

そのスマホに関しても、いろいろデータというか話が出ていましたけれども、この街頭指導なのですけれども、場所によっては、こんな場所までいて大丈夫かというところが幾つかもちろんあるわけです。我孫子の場合には公園やゲームセンターは余り見かけないということなのですが、自転車の無灯火のところは3人とかあるのですけれども、これは日にちによって街頭指導している時間帯というのは大きく違うのですか。

○大島少年センター長 6中学校区それぞれで活動を行っているのですが、時間帯的には、ほぼ同じ時間帯になっております。この11月、12月の時間帯では、12月10日に関しましては一斉の指導であったため7時から8時、その他の日にちについては、ほぼ6時から7時という時間帯の中での活動になっております。以上です。

○豊島委員 しつこくてごめんなさい。いろいろな意味で、ここのところというのはいろいろなことが起こるのを防ぐ1つの手段だと思っているものですから、お聞きしています。6時から7時ということで、夏だったら明るいですが、冬は暗いですよね。公園にいないのは当然だし、ゲームセンターは話は別ですが、一斉に7時から8時は置いておくとして、私は地区のほうで回ったりしているのですけれども、みどり台なんかは7時から8時に回っているのですが、6時から7時の時間帯の少年指導というのは、時間帯としてはこのぐらいの時間帯が一番いいですか、どうですか。ちょっと遅いなという感じもするのですけれども。

○大島少年センター長 子供たちの姿を見るということであれば、もっと早い時間帯、小中学生の下校時刻に合わせてやるというのも1つの方法です。そうやって少し時間帯を早めていこうという取り組みも各中区では話し合われています。ただ現実には、パトロールされる方がお仕事を持っていたりで、なかなか早い時間帯、例えば4時半とか5時からというのが、なかなか集まるには難しい時間にもなっております。以上です。

○豊島委員 それはよくわかります。私も7時からと言われて、7時に帰ってくるのにえらい目に遭ったりしておりますので、実際に6時から7時というのも、そこに集まるのは大変だと思います。働いていけば大変だと思いますけれども、それはそれとして、より子供たちの実態に合わせた時間帯があるのであれば、そちらのほうに努力して移動していったほうがいいのかと思います。これは自分も参加しますけれども、地域のほうでこの指導は見守らせていただきたいと思います。ありがとうございます。

○倉部教育長 御意見ということでよろしいですか。ありがとうございます。  
ほかにいかがでしょうか。

○足立委員 17ページの「杉村楚人冠記念館講演会「柳田國男と布佐・布

川」)、これは私も拝聴させていただきまして、大変興味深く聞かせていただきました。会場もかなり人が入っていたようで、参加する方は御年配の方ばかりかなと思っていたのですけれども、私の前の席には赤ちゃんを抱えたお母さんが座っていらして、意外だったものですから、非常にいいことだなというか、いろいろな年代の方、私も偉そうには言えないのですけれども、そういう方が来ていて大変おもしろかったです。この講師をなさった小島先生は柳田國男先生から直接薫陶を受けられたということで、何か柳田先生の息遣いが聞こえてくるような、何か生々しいというか、そういうお話も聞けてとてもよかったです。この参加された方から反響というか、感想として聞こえてきたものがあったら教えていただきたいと思うのですけれども。

○西沢文化・スポーツ課長 直接お話を当日何人かにお聞きしまして、やはり小島先生の話術はすごいなど。

○倉部教育長 傍聴人に申し上げます。室内での携帯電話の使用はやめてください。

○西沢文化・スポーツ課長 そういう小島先生の人となりが出ていらして、当日、聞いていただいた方からはすごくよかったという反響は聞いております。その後、直接まだお手紙等ではいただいているわけではないのですが、現実的に現場で見て聞いていただいた方は、最後に「ありがとうございました」というお声をかけていただけた方がたくさんいましたので、本当にやってよかったなど。主催者としてはすごくうれしいお言葉をいただいております。以上です。

○倉部教育長 よろしいでしょうか。

私も感じますけれども、最近いろいろな催し物の中で、とてもいい催し物をしているというふうに感じますので、ぜひとも皆さんもごらんいただければうれしいかなというふうに思います。ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

○豊島委員 今の柳田國男の件は、授業が重なってしまって聞けなくて悔しく思っています。小島先生は私の教わった先生でもあります。

11ページの教育研究所のところでお願いいたします。毎回、このデータは大変なデータなのですけれども、細かく見せてもらっております。ありがとうございます。小中一貫教育が全てではないのですけれども、小中一貫教育というのを、さらに実りあるものにしていくために、このデータも活用したいと思っているのです。

1番目の「教育研究所が現在担当しているケース」の「①子供の不登校に関すること」の中で、「学力」というのが3人とか、対人関係の12人とか、「④学習の遅れに関すること」の16人とか、そんな簡単には言えないのですけれども、小学校から中学校に行ったり、あるいは幼稚園から小学校に入ったりしてというところでの学習でのつまずきとか何とかを防いでいくことができる、そういうことに少しでも行きたいと思っているのですけれども、この学習の遅れの16人とか、あるいは不登校に関することで、学校、あるいは施設が変わったことによるギャップが原因でとかという、その辺のところがあるようでしたら教えていただきたいと思うのですけれども。

○水戸教育研究所長 いつも関心を寄せていただきましてありがとうございます。

まず学習に関しましても、おくられている子がこれだけいるということではなくて、そのことに危機感を感じて、私どもに相談を持ちかけてくださったという方が16件という意味なので、実際に勉強のことで悩んでいる子供たちはもしかしたらもっといるかもしれません。これは各学校で担任の先生方を中心にしっかり取り組んでくださっているものと考えております。私どもとしましては、きっかけはこういったことですし、学習指導の場ではありませんけれども、本人のやる気ですとか自己肯定感が下がらないように、また今後、御家庭でこ

ういった対応をしていただくことで子供たちのやる気が高まるのではないかと  
か、そういった方向で地道に相談業務を重ねてまいりたいと思っているところ  
です。

○豊島委員 ありがとうございます。もちろんこれは研究所ですから、学校で  
はありませんから、そのところはよくわかりますけれども、「子どもの学習  
の遅れに関すること」での相談というか、それに関する何か危機感とかあるか  
らなわけですし、それを防いでいくためにはどうしたらいいかということへの  
データというか、情報にはなると思うのですね。学校との取り組みで、ですね。  
ここのところはもっと多いかもしれないし少ないかもしれない。それはわかり  
ませんが、そのところを何とか拾い上げながら、学校との連携はもち  
ろんやっているわけですから、そのところで何とかしていくということをし  
ていきたいと思うのですよね。平成26年度のデータが出ていますし、10月、  
11月というところのデータも出ているわけで、そういうところを本当にこう  
やってこまめに拾ってくださっていて見えるようになっているのですけれど、  
ゼロにすることはもちろんできないし、ゼロになればいいというものでももち  
ろんないのですけれども、さらに小中一貫のところを具体的につなげていくた  
めの何かしら大きなサジェスションがここから出てくるのではないかなと思っ  
ているのですけれどもね。毎回同じようなことを言って、私自身の中で隔靴搔  
痒的などころがあるのですけれども、でもずっとずっと見守っていきたくと思  
っています。ありがとうございます。

○倉部教育長 御意見ということでよろしいですか。ありがとうございます。

それに関連して、こういうデータは傾向としていろいろ、これだけではなし  
につなげるということは大事だと思いますので、多分委員もそういうようなこ  
とを願っていると思いますので、ぜひとも学校現場とのつなぎの中で実績につ  
なげていただければありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

ほかにかがででしょうか。事務報告についてよろしいですか。

○豊島委員 もう1点だけお聞きします。鳥の博物館のところの18ページです。これは杉村楚人冠記念館やその他のところもそうなのですけれども、いろいろな企画展もそうですけれども、冬の散歩道もそうですけれども、積極的にイベントあるいは企画を展開してかなり参加者もふえているというか、継続しているということでもいいなと思っています。特に鳥の博物館は我孫子ならではのものですので、これらはさらに行きたいと思います。(4)の「11月の館内団体の解説・ガイドツアー」21人ということですが、これは申し込み次第ですか。定期的な日にちというのは決まっていたのですか。

○斉藤鳥の博物館長 お答えします。2つありまして、団体さんが申し込んだときに行うガイドツアーが1つあります。それから、もう1つは主に日曜日の午前中と午後に1回ずつ学芸員が行うガイドツアーをやっております。11月はイベントがいろいろあって、イベントがあるときはなかなか館内の定期的なガイドツアーができないということもありまして3件ということなのですが、その二通りのガイドツアーをやっております。

○豊島委員 私も団体で一度お世話になってみたいなと思いながら、なかなかできないのですけれども、そのうち申し込みたいと思います。ぜひお願いします。今後とも積極的に展開してください。ありがとうございます。

○倉部教育長 ぜひ御利用いただきたいなとも思いますし、先ほども生涯学習の施設の中でも申し上げましたけれども、実はつい最近、あびこの魅力発信室がかかわった中で、市のプロモーションDVDができました。ごらんいただくと我孫子の魅力のほとんどが生涯学習施設で埋め尽くされています。ぜひごらんいただきたいなと思います。景色、手賀沼というものもさることながら、我孫子にはこういういい施設があるというところをPRしているDVDになっていますので、ぜひごらんいただいて御紹介いただければと思います。私から

のお願いですが、よろしくお願ひします。

事務報告についてはよろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 ないものと認めます。事務報告に対する質疑を打ち切ります。

次に、事務進行予定について質疑があればこれを許します。いかがでしょうか。

○豊島委員 学校教育課の2ページ目の「給食調理業務委託プロポーザル第1次選定会議」というところです。今、私のところにいる学生も、コンパなんかをやったりすると、乳製品がだめなので、その子のためには、みんなが食べ物をチェックするのですよね。「それはだめ」とか言っているのですけれども、給食というのも今本当に大変な時代ですから、そういう中で前のページからつながりでもあるのですけれども、この給食の業務委託というのは、私はわからなくて教えてもらうので申しわけないのですけれども、これというのはどういうふうな選定というか、何か基準とか、そういうものはあるのですか。簡単でいいですから教えていただけますか。

○丸学校教育課長 平成10年から、この事業のほうはやっています。我孫子中学校を皮切りに現在19校中18校が全部、この委託業務でやっているということです。

とにかく安心で安全というのが給食の大前提になりますので、そこにプラスしておいしいというのが出てくると。技術の提案をしていただいて、その中で一番いい業者を選ぶというような形にはしております。以上です。

○豊島委員 ありがとうございます。この業者というのは、我孫子市の場合というのは多く申し出てもらえるものですか。

○丸学校教育課長 現在は、たしか4つの業者でやっているかと思うのですけれども、実際は手を挙げている会社というのは、その倍以上はあります。

○豊島委員 わかりました。ありがとうございます。

○長谷川委員 教えていただきたいことがあるのですが、7ページの教育研究所の3番の「第2回言語・並木小通級指導教室担当者会議」の事業なのですが、柏のサテライト教室、これというのはどういったものなのでしょう。県立のものか何かですか。

○水戸教育研究所長 千葉聾学校の分校ではないのですが、その施設ができて、それが柏のサテライト教室ということなのですが、やはり市内にもそういった障害のある子がおりまして、このサテライト教室のほうに通っております。その受け入れの状況ですとか、もっと踏み込んで、そういう子が教室にいるときにはこんな配慮が必要です、こんな指導をしてあげてくださいというような研修の場まで含めた協議が、ここでも行われております。

○倉部教育長 よろしいですか。ほかにいかがでしょうか。

○北嶋委員 14ページの文化・スポーツ課で、先ほどの続きになってしまうかもしれませんが、2番の「千葉県北西地区文化財行政担当者連絡協議会」の内容のところには各市町村からの文化財の発表とありますけれども、ここに先ほどの文化財についての発表等は我孫子市から行くのですか。

○西沢文化・スポーツ課長 私どものほうも、担当者が発表をする予定になっております。これについては下ヶ戸貝塚から出土しております磨製の石斧、小さな石斧から大きなものまでいろいろあるのですが、特に小さなものについて研究をしているものを発表したいということで今予定をしております。

○倉部教育長 よろしいですか。ほかにいかがでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 ないものと認めます。事務進行予定に対する質疑を打ち切ります。

次に、教育事業全般について質疑があればこれを許します。

特に今回は議題を予定しておりませんが、もし御質疑、あるいはこういう提案でというのがございましたら、お願いしたいと思います。

○豊島委員 「繫」をかなりたくさんいただいております。これは一つ一つしっかりと読ませていただいております。いろいろな意味での私の勉強源になっています。

その中で、例えば95号です。英語の **Abi-English** の検証授業を通して小中の先生方の交流が実施されていて、小学校の授業を中学校の先生方も見たという件であります。先ほど北嶋委員のお話でもありましたけれども、例えば2番目の湖北台東小学校の6年生の授業を見た先生の中に、先生とALTの打ち合わせの時間を確保することの大切さを再確認したとか、あるいは小学校の生き生きとした活動を見て自分たちも中学校の授業についてのことを考えさせられたとかというふうなことがずっと並んでおります。いいなというふうに本当に思うのですけれども、逆に言ったら、ちょっとこれは語弊があったら謝りませうけれども、今さらなのという、行って見て初めてそうなのというふうなことも逆に感じるわけです。必要だからやっているわけで、今まで十分いっていないからやっているわけで、一緒に見てもらって感動してもらって、それで修正されていくということはいいのですけれども、これを読むと、今までは全然交流はないというか、余りわかっていなかったのかなということも逆に知らされるわけですよ。ですからこういった交流授業が大事だということになるのですけれども、いろいろなことがありますから簡単には言えませんでしょうけれども、こういった交流の授業の大切さみたいなものを改めて実感するのです。当たり前だよと言われたらそれまでですけれども、実際にこれを企画してみて、この行事の必要性とか、さらにこういう点が必要なだけけれどもとか、そういうことをお考えになっていると思うのですけれども、何かありましたらおっしゃっていただければと思いますが、いかがでしょうか。

○榊原指導課長 御指摘いただいたこの授業交流ですけれども、我々が進めている小中一貫の一番重要な視点ではないかなと考えております。小中学校が実際に授業を見て、子供たちの様子、教師の指導姿勢を見て、お互いに学び合うというところが、これまでなかなか小学校、中学校それぞれの目の前の子供たちの指導で手いっぱい、中学校の先生でしたら教科を持ち、あき時間には子供たちの生活ノートやそういうものの添削、また部活動、もちろん小学校は御存じのとおり担任制ですから、あき時間があっても本当にごくわずかというところで、やはりこちらが仕組んでいかないと小中の交流授業、職員の交流というのはなかなか難しい現状があります。その仕組と手当てというものをこちらが意図してケアをしていくということが今後大事ではないかなと、いよいよ感じている次第でございます。

○豊島委員 ありがとうございます。本当にそのとおりで、私は心に入れさせてもらいました。本当に大事なことだと思いますし、実際に行ってみないとわからない。逆のケースもありましたけれども、行って見てそれを見てみないとわからないということで、先生方の問題が一番最後まで残るのだろうと私も思っています。一貫教育をきちんとうまく起動させるためのこういった授業というのはこれからも本当に必要なもので、しつこいぐらい、おまえも行ってみろよと言われたら時間を許す限り行って見ますけれども、続けていってほしいなと本当に思っています。時々おもしろい言葉があって驚いたりしたりもする「繫」なのですけれども、大変でしょうけれども、これからも書いてください。お願いします。

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。

○北嶋委員 「繫」で関連ですけれども、私は98号を読ませていただいて、今、豊島委員の御意見もありましたけれども、小学校の先生たち、また中学校の先生たちもそうですけれども、今教えている小学校の子供たちが中学校にな

るのだという実感、その子たちが自分の教えたことが中学校の学習につながるということを目の当たりにして多分感じられることの大切さが、皆さん行って初めてきっとわかるのだと思うので、豊島委員の意見もそうですけれども、まずは感じていただく、見ていただく、それで知っていただいて、委員会も手当てするそうですが、まず御自分も指導方法にプラスになられるでしょうし、現場の方が小中一貫の必要性を感じてくだされば、現場と組織としてのやり方と両方からいけば小中一貫もよりスムーズになっていくと思いますので、この1年の「繫」を読んで、現場の先生の御意見を見てくると、やはり小中一貫も必要なのだ、やったほうがいいのだという傾向が出ていますよね。そういうことでそれはよかったなど。時間がかかることですが、去年の今ぐらいは現場が大変だよねという話が多かったと思うのですが、ことし見せていただくと、皆さんが行ってみて、やはり必要なのだと、小学校ではこんな教え方をしているのだ、中学校ではこうなのだということが、わかっていらっしゃらないのです。先生たちは御自分の職場しか知らないから、保護者ほどはわかっていらっしゃらないかもしれないので、そういう意味では、そういう目線で見えていただくのはよかったですよね。私はそう思って、「繫」を読ませていただきました。ありがとうございます。

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。もし「繫」についての御感想がほかにあれば、よろしいですか

私のほうからも感想を述べさせていただきますと、「繫」が100号を超えました。皆さんからの御意見があったように、この内容をこれだけ発信し続けているという指導課の担当者の方に心からの敬意を表したいと思います。

この「繫」ということは、小学校と中学校の先生同士をつなぐという意味でやっていますけれども、学校現場と学校現場をつないでいるし、学校現場と教育委員会であるこの私たちともつないでいるし、私は「繫」をもって市長と副

市長にもつないでいるつもりでいます。これと同じものを全てお渡ししてごらんいただいて、学校現場がどういうふうに行っているか、とてもいい取り組みだと思いますので、これがどんどん出て実際の現場のことを多くの人に知ってもらうということはとても大事なことです。労をねぎらうとともに、これからは頑張っていたきたいなと感想を持ちました。よろしくお願いします。

ほかに教育全般について何かありますでしょうか。

○豊島委員 1つだけお願いします。ことしも幾つかの学校に行かせていただきました。見せていただいてよかったと思います。その中のやりとりの中で感じたことが1つあります。私が教育委員になったときに高校入試の問題があって、中学校レベルで同じ機械を入れて、その防止をやっているわけです。それはそれでいいのですけれども、どの先生方も新しく導入したものに対して熟達しているわけではない。できる人とできない人がもちろんいるわけですね。当然それは予想されることですし、入れたからそれでいいのだというふうに私も思っていないのですけれども、それをカバーしていく、これからのことが必要になってくるのだなど、その話し合いの中でも感じておりました。それと同じことなのですけれども、先ほど小学校の児童が減っていくということをおっしゃっていて、教員も減っていくというふうになる可能性がある。そうすると一貫教育のことだって、今まで先生方がやっていたことに対して減るわけではない。業務がふえていくわけですから、余計忙しくなるということはわかるわけですね。お金がないのはわかっているのですけれども、そこをもう少しみんなで知恵を出し合って頑張っていけないと、一貫教育も絵に描いたようにはいかない。マンパワーが不足する可能性があるのではないかなということが、この間のやりとりの中で、やはりそうなのだということに頭が行っておりました。教育のほうもマンパワーをいろいろな形でカバーしながら乗り切っていきたいなというふうに思っています。

そのところで、こういうところがこうなのだよということを皆さんは別に私たちに豪語する必要は何もないので、皆さんのほうからこういう問題があるよということを、むしろおっしゃっていただいて、そしてみんなで考えるという方向がいいのではないかなと思っていて、偉そうに聞こえたら申しわけありませんけれども、率直に思っていることです。そんなことは考える必要はないよということであれば、そのようにお叱りください。感想です。

○湯下教育総務部長 貴重な御意見をいただきましてありがとうございます。ぜひとも私どものほうも無駄のない、自信を持って推進する事業ですので応援していただければありがたいなど。また1月の総合教育会議でも市長のほうにいろいろ御意見をいただけるとありがたいなというふうに思います。よろしくお願いたします。

○倉部教育長 それについて、私も感想なのですけれども、今市の置かれている状況の中で教育費を拡大するというのは、多分相談すればすぐに言われると思います。ただそうはいっても、地道な一つ一つの必要性を説明することによって、1つずつ理解をしていただいているかなというふうに思っていますので、今部長が言われたとおり、今後の努力は多分我々のレベルでの一押しではないかなというふうに思います。担当のレベルで予算を要求しても、全体の中でということですから、教育委員の皆さんが一緒になって必要性を訴えていく。それをもって学校の現場で先生たちが楽になるように成果を出すというのはとても大事なことだと思いますので、ぜひとも5人が力を合わせて進みたいなと思っています。御協力のほどよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

ほかに教育全般について。

○北嶋委員 今、あびこeモニターという制度があって、第2回の11月の分は教育委員会のテーマだったので、指導課長もいっぱいお答えになっていらっしゃいましたけれども、全般として、今回は若い方が多いので、シニアだけの

意見ではないことで読みました。結局市民の皆さんは、情報が欲しいというのは大きくありましたよね。何かお手伝いをしたいのだけれども、どうしたらいいかわからない、主にそんな感じだったのですよね。それに対して細かくお答えになっていらっしやいましたけれども、ホームページを見ると、我孫子市の教育委員会からも地域支援本部も出ているし、幾つかの学校はボランティアを募集していますというのが出ていたりしますけれども、出しているほうの立場と受け手の立場では情報の濃度というのは違うので、足りない足りない、もっとやりたいのだけれどもというのが本当に多いのでびっくりしました。やはり学校というところですから、何でもウエルカムではなくて学校のニーズに対する力添えが欲しいというのが現状なので、その辺の広報の仕方が難しいと思いますけれども、学校のホームページもいろいろで、ことしは平成何年かなというホームページがあったり、本当にお手伝いしてくださいという学校があったり、余り見てほしくないのかなと思っているのがあったりというところで、ICT支援員さんがやったときにば一っと1回よくなったのですが、やはりこれも先生たちの多忙化で余り強く言えないのですけれども、なかなか情報がしっかり出ているとはいいいがたいようなのが現状ですよね。どうしたらいいのか私もわからないのですが、市の皆さん、地域の皆さんは、学校が地域のものとしてどんな研究をしているのか、子供たちが例えばどんな遠足に行っているのかを知りたいということもあって、それでも全部知らせろというのではないのですけれども、それだけ関心を持ってくださっていることなので、学校を助けていただける方がいるのであれば、どうやってその方とのつなぎをつけたらいいのかというのも、今の学校地域支援制度のままでいいのかと、もっとアクティブに動いていけるような制度に進化していかなければいけないのではないかなと思います。

学校が受け入れ先だと教頭先生、校長先生がとても大変になるので、学校と

ボランティアコーディネーターがもうちょっと密になって、その方を通してきちんとある程度受け入れ体制のところまでできるといいのですが、現実には学校の先生方の御意見を重視していかないといけないところがあるので、今見ていると難しいのですよね。だけど地域の方は、若い方もシニアの方も、もっと手伝えたらいいのにとか、もっと住民と触れ合えれば子供たちと仲よくできるのにとありました。先ほどの大島センター長の話では、子供の姿は外で見えないというのは、多分そういうことがあって、地域の方は学校が見えなくなっているというのがありますよね。これから地域支援本部の役割がすごく大きくなっていくような気がして、ありますよ、やっていますよだけでは、なかなか本場の地域の力を生かすことができないのかなと。これは感想ですので、そんなふうに思いました。一生懸命課長がお答えになっているのも読んでいますし、そのとおりだと思いますけれども、もう一步踏み出していかなければいけない時期になっているのかなというのは、支援本部を見ていてそれも思っています。

○倉部教育長 御意見ということでよろしいでしょうか。

今の御意見を十分にしんしゃくしていただいて、今後のとるべき我孫子市教育委員会としての方向性を見つけられたらいいかなと思っています。またそれについて、課題があれば教育委員会のほうにフィードバックしていただいて一緒になって考えてみたいと思いますので、ぜひよろしくをお願いします。

○豊島委員 今、北嶋委員がおっしゃったことに対して、私もそう思うのですよね。この間、研修会で行った習志野の例でしたか、PTAとはまた別の組織があって、かなり地域をバックアップしているのですね。あれが完全にいいスタイルだと私も思わないけれども、でも地域の方々が本当に積極的に1つのチームをつくって学校をサポートしているのですよ。先生方からすれば、そんなに余り入ってこられても困るのですよね。ここにいらっしゃる方々はいろいろなことを知っている方々で、ここを退職なさった方々も相当いるし、教員を退

職された方々だってたくさんいるわけですよ。この人たちは自分がどのくらい出たらいいか、どのくらいやったらいいかということは全部心得ているのです。大人なのです。そういう人たちも参加してもらいながら何かつくっていくようにしないと、うまくいかない時代になってきているのではないかなど。OBの方々も年齢的にもそんなに年をとっていないし、まだまだ元気だし、知恵はたくさんあるしという、そういう人たちの力を習志野市はうまく活用していますよね。そういうところを一步踏み込んでいって、我孫子はそういうことをやっているのだ、結構うまくやっているのではないかという例を、皆さんはいろいろなことを知っているわけですので、こうやりたいぞということをたくさんおっしゃっていただいて、教育長を初め、みんなでどうだというようなこともやりながらやっていくのが、これからの時代ではないか。児童数が少なくなれば、教員も少なくなる。ますますいろいろな面で圧迫を受ける。そこのところで助ける人たちというのは、そういう人たちがいるのではないかと思うのですね。それについてお答えいただくということではないと思うし、私以上に皆さんのほうが、そういうことに対しては、しみじみと心の中にいろいろなことを思っていると思うのですけれども、そういうところをどうぞ教えていただきたいと思うのですね。教育長に任せます。

○倉部教育長 先ほどの北嶋委員の御意見と同じように真摯に受けとめ、それについて方策を探っていくべきだろうと思いますし、そういうふうにしていただいて、またこの場の中でそういうような解決策を探っていきたいと思います。学校地域支援本部の活用とコーディネーターの役割というのも、とても大事なタイミングになってきたなと思いますので、それも含めて皆さんと一緒に考えていければいいなと思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

ほかによろしいですか。

(「なし」と呼ぶものあり)

○倉部教育長 教育事業全般について質疑がないものと認めます。以上で諸報告に対する質疑を打ち切ります。

---

○倉部教育長 以上で平成27年第12回定例教育委員会を終了いたします。どうもお疲れさまでした。

午後3時25分閉会